

第3回 加茂市都市計画マスタープラン 地域別懇談会（西加茂地域）
議事要旨

日時：令和6年11月16日（土）14：00～15：15

場所：加茂市役所 3階 301会議室

出席者：8名

- 1 開会
- 2 加茂市都市計画マスタープラン（案）の概要について
- 3 質疑応答
- 4 事務連絡
- 5 閉会

【質疑応答】

地元意見	事務局回答
・都市計画マスタープランの「実現化方策」とはどの程度まで実現させるのか。この「実現化方策」と実施計画は何が違うのか。	・実施計画は各課で進めるものであり、「実現化方策」は現状の施策や各課で今後進める施策の概要をまとめたものである。
・マスタープランの期間は。	・都市計画マスタープランの計画期間は20年で、10年ごとに見直しを行う。
・若年層からのアンケート結果がマスタープランにどう生かされたか。 ・若年層の具体的な意見はどのようなものか。	・具体的な反映部分は言えないが、意見は取り入れている。 ・遊ぶ場所や商業施設の要望が多かった。
・高須町などでは、高い建物の避難所がない。今計画している子育て支援施設を高須町に持ってくることで避難所と兼ねることができないのではないか。	・確かに高須町付近は避難所が特にないということは以前から言われている。今から方針転換は難しいと思うが、こういった意見があったというのを主管課に伝える。 →敷地の件、行政機能の集約、その他諸々を考慮した際に最適であるのが、現状案で示した部分であると認識している。

地元意見	事務局回答
・無秩序な市街地の拡大の抑制という方針があるが、新しく造成した住宅地に家が建っており、古い住宅地では空き家が増加している。空き家を活用することが理想であるが、その対策は難しい。	・基本的には既成市街地を有効活用し、なるべく拡大は防ぐ方針としている。市では空家等対策計画の策定を進めており、今後対策を進めていく。
・加茂市は新潟市や長岡市の衛星都市として住宅都市の方向性がよい。交通の便がよい西加茂地区に思い切って住宅団地を造成する大きな構想も考えるべき。	・インフラ整備の問題もあるが、加茂市の都市の方向性の意見として参考にさせていただく。
・避難訓練をしてもどこを目指して避難するべきなのかははっきりしていない。 ・計画としてこれだけは変えない柱を示していただきたい。	・今回の都市計画マスタープランが様々な施策の柱になる計画であり、この計画に基づき進めていく。
・農地はどの程度守っていくのか。基本的には今ある農地を守る方針であるか。	・今ある農地を守る方針である。農林課の地域計画に基づき農地の保全を進めていく。
・主要幹線道路沿いは生活利便性がよく、本来であれば商業施設や住宅があるべきであり、なぜ農地を守っていくか説明が必要である。	・農業振興地域の農地は今後も守っていく位置づけは変わらない。今後、社会情勢の変化があれば検討が必要である。
・防災対策については、ほとんどがソフト施策である。ハードの防災対策が見えていない。	・国では信濃川流域治水プロジェクトによりソフト・ハード両面で対策を進めている。ハード対策は県や国の協力が必要である。全体構想の方で位置付けている。